

助成事業実施報告書

団体名 _____ SPPOG

代表者・役職名 氏名 _____ 代表幹事 加藤康明

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

今夜はお弁当の日

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

現在実施していることも宅食事業と並行し、月1回程度平日の夜にお弁当配布の日を設定し、支援要請登録済の子育て中の世帯を対象に、事務局で統一した内容のお弁当を用意し仕事帰りに事務局に立ち寄り弁当を持ち帰るようにしました。

集計は登録されたメールアドレスに案内をして 구글フォームで集計する方法をとりました。

事業が軌道に乗り且つ、理解のある事業所が現れた際には弁当の種類を増やしたり、出来立てを提供したりする等の連携した取り組みに向けて協議し実施に向けて務めていくようにしました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

31世帯(87人)を対象に、助成を受けた8月から毎月1回計8回、合計417個のお弁当を提供しました。

提供を受けた保護者からは「子どもと会話をしながら夕食が取れて嬉し」「1食分とは言え仕事の後に家事を免除されるのは心身ともに非常に助かります」「父子家庭で半完成品やレトルト中心の食事ばかりなので手づくりのお弁当はとても助かる」。子どもからは「お弁当の日はお母さんがやさしい」「学校のことやスポ少のことをいっぱい話せた」といったようなお話が寄せられ、事業を行って良かったと感じました。

お弁当の作成は取り組みの内容や事情を酌みとって頂いた地元の事業所に依頼することができ、毎月配布直前に温かいご飯を詰めて届けてくださいました。

なお、実施日と個数は次の通り。2022年8月31日/47個、9月28日/52個、10月26日/50個、11月24日/50個、12月21日/52個、2023年1月18日/54個、2月27日/56個、3月24日/56個

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

当初地元の数件の事業所からバラバラにお弁当を取り寄せる予定でしたが、急激な物価高騰や夜の事業という事もあり受けて頂ける事業所が無くなるどころでした。今回協力をして頂いた事業所も来年度は単価を上げて頂けないと協力できるか否かわからないとの回答がありました。

今回の事業は非常に良い影響が出始めていると捉えていますので、我々としても回数や時間帯は今後協議するとして、今後は単価を上げて依頼するようにするか、子ども食堂の様にボランティアを含め自分達で調理パック詰めをして提供することでコストダウンを図るかなど、同様の事業の継続を前提に子ども食堂の開始も視野に入れながら検討していきます。

また、夏休みや冬休みなどの給食の無い長期休みの昼食対応の要望も対愛の出検討していきたいと考えています。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

